

## 「肝心閑話」

校訓：自主 責任 奉仕 協力

(文責：校長)

よく学び、共に生きる生徒 ①正しく考える ②愛する ③尊ぶ

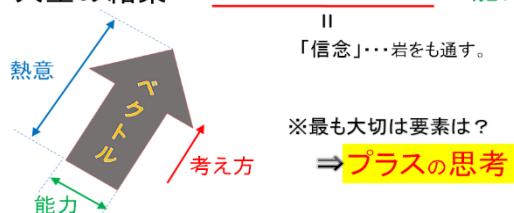
確かな学力 思いやりの心・たくましい体 豊かな人間性 主体的な生活設計 郷土を愛し、郷土に生きる力

## 〇〇オアシス

「おはようございます。」「ありがとうございます。」「しあわせだなあ。」「すみません。」

## 学校の教育成果を左右する6要素…「ベクトル」を合わせてください。

人生の結果 = 考え方 × 熱意 × 能力



京セラ創業者で日本航空名誉会長の稲森和夫氏が、人生の結果は3つの掛け算であると述べています。

「人生の結果」＝「考え方」×「熱意」×「能力」

「考え方」×「熱意」は「信念」という言葉に置き換えられ、中村天風は「信念」と「能力」の掛け算で人生の成否が決定すると述べています。

ところで、チームスポーツの勝敗の結果は、①体力・体格、②技術(スキル)、③戦術(作戦)、④精神力、⑤チームワーク、⑥運、の6つの要素の掛け算で決まると考えられています。掛け算というのは、ひとつの要素が「ゼロ」であると、いくら他の要素がよくても全体として「ゼロ」になるという性質をもちます。バレーボールの例でいうと、いかに個々の体力・体格に優れ、スパイクやサーブの技術が高く、戦術や精神力に問題がなくても、チームワーク「ゼロ」だと、ゲームで勝利をおさめることはできないわけです。

学校は、教える先生と学ぶ生徒がいて成立します。学校教育は複数の教育者の営みであり、学校の教育成果もチームスポーツの勝敗と同じような性質をもつと考えられます。

右図は、チームスポーツの勝敗を決定すると考えられる6つの要素を学校教育の成果を決定する要素に当てはめて考えたものです。

これら6つのそれぞれの要素を高めることは勿論のことですが、ひとつの要素でも「ゼロ」、もしくは「マイナス」であると、全体の成果はあがらないということを忘れてはなりません。

チームスポーツの勝敗 → 学校教育の成果

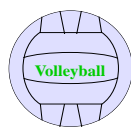
① 体力・体格 → 教師の各自の力量

× ② 技術 → 教師の教育スキル

× ③ 戦術 → 教育課程編成・時間割作成・  
学校行事計画、校務分掌

× ④ 精神力 → 教師のメンタル面

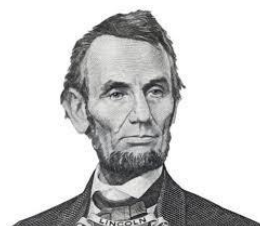
× ⑤ チームワーク → 組織の活性化

× ⑥ (運) → 教育環境整備  
共同意識の向上

## 教師は自分の顔に責任を！

心理カウンセラーのラッキーさんが、仕事を楽しくする方法の一つにデスクに鏡を置くことを勧めています。自分で自分の顔を見ると心が落ち着き(メタ認知)、人目があると、集中力が上がる(ホーソン効果)のです。

「40歳以上の人は自分の顔に責任を持て」 Man over forty is responsible for his face. と言ったのは、「奴隷解放の父」アメリカ第16代大統領、エイブラハム・リンカーンです。味見をしてから食べ物を提供する料理人のように、教師は自分の顔を鏡で見てから生徒と接するように心掛けると、生徒の反応も全く違ってくると思います。



今週も、いい顔・いい笑顔で、よろしくお願いします。

# 全校朝集=授業

大変、荒れていた中学校に勤務していた頃の話・・・

全校朝集をするのはなかなか大変で、生徒は並ばない、遅刻者は山のようにいる状態で、校長先生の話は誰も聞いていないという状態でした。集会係だった私は、何度となく、校長先生に、「今日の朝集はやめましょう。」と提案し、「もっと、生徒たちが関心を持つような、いい話をしてください。」と失礼なことまで言っていました。

2学期のある日、朝からその校長先生に呼ばれ、私に原稿を見てくれと言われるのです。何かと思うと、全校朝集で話される内容でした。話す内容を原稿にすると、話が簡潔でわかりやすくなります。それ以降、生徒たちはよく話を聞くようになり、早く並び、遅刻者も劇的に減っていったのです。全校朝集の校長の話なんて誰も聞いていないだろうと思いきや、その感覚は教師たちだけで、生徒たちはよく話を聞いていて、しかも話の内容をいつまでも覚えているものです。

今年から神出中学校では、全校朝集を毎週実施することにしました。単に校長が話をするからというわけではありません。生徒たちが、週のスタートから、「さあ、今週も頑張ろう！」とエンジンをかけられるように、また、遅刻のないようにするためです。可能な限り、生徒にも先生方にも、前に出てもらう機会を作ります。もちろん、私も、「**全校朝集は授業**」のつもりで話題を提供したいと思います。

さて、今日の全校朝集で、生徒たちに**3つのお願い（約束事）**をします。

一つ目は、全校朝集の時に表彰の伝達をしますが、**胸の位置で大きな音をたてて手を叩く**ということです。

表彰の時に、誰も手を叩かなかったり、叩いても指を合わせるだけで音が出なかつたりする場面を想像すると、ちょっと寒い感じがしますね。

二つ目は、神出中学校内での**禁句3D**です。3Dとは、「でも」「だって」「どうせ」です。入学式の時に1年生にも話したのですが、中学生の時期は心も体も大きく成長する「ヘンシン」の時期だと思います。大きく、いい「ヘンシン」をするには「素直」であることが大切で、そのコツは「3Dを言わない（言わせない）」ことです。

「経営の神様」と言われた松下幸之助氏が、【素直な心の内容 10ヶ条】というのを具体的にあげています。

①私心にとらわれない、②耳を傾ける、③寛容、④実相が見える、⑤道理を知る、⑥全てに学ぶ心、⑦融通無碍、⑧平常心、⑨価値を知る、⑩広い愛、で、「素直になるための手っ取り早い方法はなんですか」と聞かれて、「毎日、素直になりたいと念じ続けるしか方法はない。」とお答えになっています。そこで、本日、生徒たちに、松下幸之助氏直筆の「素直」カードを渡したいと思います。



そして、三つ目は、**「ミ」の音で挨拶をしよう**ということです。

神出中学校のスローガン「神出オアシス」です。オアシスは、「お」はうございます、「あ」りがとうございます、「し」あわせだなあ、「す」みません、の頭文字から取っています。「おはようございます」と挨拶に心掛け、「ありがとうございます。」と感謝の心を大切に、「しあわせだなあ」といつもプラス言葉を口癖にすることを、これだけでは「済まされません」と継続してやることを目標に掲げています。

まず、挨拶ですが、これには、朝の「おはようございます」だけでなく、授業前の「お願いします」や授業の終わりの「ありがとうございました」も含みます。それらの挨拶の声の音を2音あげましょうということです。つまり、「ドレミ」の「ド」の高さであいさつをしている人は、「ミ」の音でしてくださいということです。

**今週も、いい声でスタートしましょう。**